

令和元年度 自己評価結果公表シート

社会福祉法人幸輪会
うきは幸輪保育園

評価項目の達成・取組み状況・これから改善したいこと

評価項目	取組み状況
I 保育の計画性	社会福祉法人幸輪会の保育理念に基づいて、「目指す子どもの姿」「保育方針」を揚げ、年間目標、指導計画を作成している。「養護と教育の一体性」を重要視し、一人ひとりの子どもの発達を踏まえたうえで、年間計画、月間計画、週案を立て、生活の連続性や乳幼児期にふさわしい経験が積み重ねられるよう、また保育内容がより充実するよう努めている。
II 保育のあり方・子どもへの発達に応じた対応	異年齢保育を通して子ども達はより多様な体験を得る事ができている。常に子ども達の様子を観察し、関わりを持つことで、それぞれの発達に応じた保育のねらいや環境の設定に取り組んだ。また、様々な行事を通して集団活動を楽しむ機会を作り、更に個の成長を促すことにつなげている。
III 保育者としての資質や能力、良識、適正	保育者の年齢層は幅が広く、若さ溢れるパワーやベテラン保育士の豊富な専門的知識、技能をうまくかみ合わせながら日々の保育に取り組んでいる。また、毎日のケース会議で保育を振り返り、更なる知識の習得と技術向上に生かせるようにしている。それぞれの得意分野を見出し、各々の保育力を生かし、互いを高め合うような保育士集団を目指している。
IV 保護者への対応・支援	職員全員が守秘義務を遵守し、保護者の立場を尊重しつつ、家庭と対等な関係を築いて互いに協力しながら子どもの育ちを支え成長や喜びを共有していきたい。
V 地域や社会との関わり・地域子育て支援	幼老連携の取り組みとして、毎日敷地内の老人施設に行き、高齢者との交流をしている。日常的に触れ合うことで相乗効果が生まれ、子ども達も思いやりやいたわりの心が芽生えてきている。また、地域との関りとして近隣のデイサービスや老人ホームへの慰問も行っている。月に1回、園庭開放を行い、地域のコミュニティの場となるようにしている。
VI 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲、態度	法人全体の研修を含め、市内の年齢別研修、園外の研修などに積極的に参加し、職員同士が主体的に学び合う姿勢と環境作りに努めている。また、毎年保育方針説明会を行い、法人内の保育園と交流を図りつつ意見交換会などを通して資質向上につなげている。